

会派視察研修計画書

令和 3 年 1 0 月 2 9 日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 小池 友妃子 印

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	小池 友妃子		
日 時	令和 3 年 1 1 月 1 9 日（金）～令和 3 年 1 1 月 2 0 日（土）		
視 察 先	大阪府泉大津市		
研 修 内 容	<p>【11月19日】</p> <p>① 官民連携デスクについて： 市長公室秘書広報課 課長補佐兼成長戦略担当長 宮寄嘉一</p> <p>②（仮称）小松公園整備事業について： 都市政策部都市づくり政策課 課長 八木勇司</p> <p>③ 臨海部を活用した取組みについて： 政策推進部地域経済課 参事兼港湾振興担当長 檜光優</p> <p>④ 新図書館「シープラ」について： 教育部次長兼生涯学習課長 鍋谷芳比古 生涯学習課参事兼図書館長 河瀬裕子</p> <p>【11月20日】</p> <p>総合医療まちづくりの現場「ヘルスペース」について （株）クラスデザイン一級建築事務所 代表取締役 今井克範</p>		
日 程	令和 3 年 1 1 月 1 9 日（金）～令和 3 年 1 1 月 2 0 日（土）		
交 通 手 段	公共交通機関 (電車・新幹線)	公共交通機関 (飛行機)	<input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

様式14

会派視察研修報告書

令和 3年12月10日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 小池友妃子

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 1 名分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	小池友妃子
日時	令和 3年11月19日（金）～ 令和 3年11月20日（土）
視察先	大阪府泉大津市
研修内容	<p>【11月19日】</p> <p>① 官民連携デスクについて： 市長公室秘書広報課 課長補佐兼成長戦略担当長 宮寄嘉一</p> <p>② （仮称）小松公園整備事業について： 都市政策部都市づくり政策課 課長 八木勇司</p> <p>③ 臨海部を活用した取り組みについて： 政策推進部地域経済課 参事兼港湾振興担当長 檜光優</p> <p>④ 新図書館「シープラ」について： 教育部次長兼生涯学習課長 鍋谷芳比古 生涯学習課参事兼図書館長 河瀬裕子</p> <p>【11月20日】 総合医療まちづくりの現場「ヘルスペース」について （株）クラスデザインソー級建築事務所 代表取締役 今井克範</p>
視察先面会者 又は講師名等	上記研修内容に記載
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

会派視察研修報告書

令和3年12月10日

議員氏名 小畑友妃子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和3年11月19日（金）～令和3年11月20日（土）
- 2 視察先 大阪府泉大津市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

① 官民連携デスクについて

【目的】

- ・効率的・効果的な歳出の実現
- ・質の高い市民サービスの持続的な提供
- ・泉大津市から全国共通の社会課題を解決

【立ち上げまでの経緯】

泉大津市は、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念に賛同し、官民連携で「健康」「環境」「教育」の3分野における最先端の研究を行い、社会課題の解決モデルを生み出す「アビリティタウン構想」を進めている。そこでは様々な分野で実証事業ができる場も用意して、より多くの民間企業や大学などからの参加を促している。

そしてこの「アビリティタウン構想」によって出てきた社会課題を解決するための解決モデルを泉大津から全国共通課題の解決モデル事業を創出し、全国に発信するために、専門窓口として「官民連携デスク」を立ち上げ、官民連携事業を広げていくこと考えた。

【専門窓口を設置した事によるこれまでの成果】

設置から3ヶ月間で、これまでの倍以上となる20社以上の民間企業から、官民連携の事業提案があった。その中のひとつに、「ロボットの活用による図書館事業の改善」に向けた実証実験を開始している。

②（仮称）小松公園整備事業について（現地視察）

市民会館等跡地をアビリティ（身体および認知機能など人が本来持っている能力・技能・才能などのこと）をテーマにした豊かな自然を感じることができる空間への実現に向けて3つの目標を持って取り組んでいる。

- かつて賑わいのあった泉大津駅西地区の活性化、臨海部との連携や賑わいの創出。

- 自分の身体を自分で「整える」ための核機能としてのアビリティ拠点を整備し、「リビングラボ」の中心的な役割を担うとともに、市内で展開される様々な事業・取り組みを束ねるプラットフォームを形成することで、まち全体の魅力向上と、市民一人ひとりのシビックプライドの醸成を実現する。
- 広大な市民会館等跡地空間と臨海部の緑地空間とを連動し、多様なアクティビティの創出、様々なことをトライアルできる空間の創出。

令和元年度に策定された「市民会館等跡地活用基本計画」を基に、令和2年度は「基本設計及び実施設計」の中で、ワークショップを実施し、参加いただいた多くの市民の皆さんに様々なご意見やアイデアを頂き、設計に反映。2023年、小松公園開設予定。

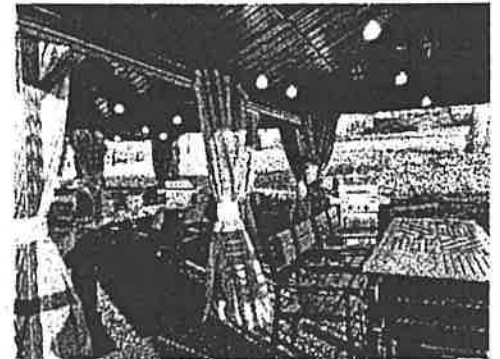
③ 臨海部を活用した取り組みについて

【水質改善実証実験】

市内の民間事業者等が中心となり、海の低層水の貧酸素化や底質の有機汚染などが生じている泉大津フェニックス周辺海域において、水質を改善し多種多様な生き物が集まる環境を作るため、実証対象技術の環境改善効果について実証する実験をスタート。実施期間は令和4年9月までの約1年間。

【なぎさ公園シーサイドバーベキュー施設 N GRILL】

なぎさ公園の課題は、①ごみポイ捨て、不法投棄②緑地部分の不十分な管理③利用者の不適切利用であった。そこで公園管理者と連携して民間業者管理による持続可能な公園の適正な維持管理と港湾の賑わいの創出の可能性を探るために社会実証実験を実施し、その結果を経て、民間事業者によるBBQ施設整備が実現。実現に向けた行政の動きとしては、①市町自ら民間企業へのセールの実施②大阪港湾局と市の担当者会議の設置をした。



④ユニバーサルミュージックとの連携事業

令和3年10月14日にある企業と「連携協力に関する協定書」を締結。

本協定をベースに、その会社が提供するBGM（バックグラウンドミュージック）配信サービス「Smart BGM」を市役所や市立図書館『SHEEPLA』において導入し、来庁者・来館者に対するサービス向上や、職員の業務効率改善など、BGMがもたらす効果について実証実験を行った。

スマートBGMとは⇒ユニバーサルミュージックグループが保有する豊富なメジャー楽曲やBGM用音源を使用した質の高いプレイリストをBGMとして利用できる定額制音楽サービスのこと。



⑤新図書館「シープラ」について（視察）

「すべての市民が新しい価値を創造する図書館」

【活動の3つの柱】

- 学び 市民自らが地域課題を解決できる支援
- 協働 多世代、多文化、各種学校、企業協働の支点
- 創造 新たな価値の創造

【サービスの3つの柱】

- 発信 ビジネス支援サービスの充実
- 交流 多種多様なイベントの実施
- 連携 学校等連携の強化

【SHEEPRA（シープラ）ができるまで】

- 2018年7月 「泉大津市図書館整備基本構想」策定開始
アンケート、ワークショップ、ヒアリング等により市民の意見をきく
- 2019年1月 教育委員会が図書館の駅前移転を決定
- 2019年3月 「泉大津市図書館整備基本構想」策定
- 2019年3月 新図書館工事設計委託料算が議会で承認
- 2019年8月 新図書館設計者選定ポータルにより選定されたフジワラボ・トミト設計共同体と設計委託契約を締結
設計分室開設、フィールドワーク・遠足型ワークショップ・フォーラムなど市民の意見を聞きながら設計を進める
- 2020年6月 新図書館工事設計完了
- 2020年9月 新図書館整備工事入札により、日本土建工業株式会社が工事請負事業者に決定
- 2021年5月 工事竣工
- 2021年9月 開館

【施設概要】

- ・延床面積 3,510.21m(アルザタウン泉大津4階全フロア) ※旧ダイソーだった場所
- ・開架冊数 約15万冊※これまでの約2倍 ・閉架冊数 約3万冊
- ・貸会議室 4室(定員70人、8人、6人、6人)
- ・座席数 約500席 ※これまでの約10倍
- ・開館時間 午前10時～午後8時
- ・休館日 毎月第3水曜日(休日のときは翌日)、年末年始(12/29～1/3)、特別整理期間
- ・貸出冊数 貸出期間内に読める範囲
- ・貸出期間 3週間
- ・貸出できる者 日本国内に住所を有する者

【事業費】

- ・整備工事費 約5億5,400万円
- ・工事管理委託料 約2,600万円
- ・備品購入費 約4,600万円
- ・工事設計委託料 約5,100万円

【ロボットを活用した図書館業務の実証事業について】

地元の会社が手がけたロボットを活用して、行方不明本の追跡や蔵書点検といった業務のオートメーション化を図ることで、これまで職員総出で行ってきたこれらの業務をすることがなくなり、職員は本の内容に関する相談や、イベント企画など本の専門知識を駆使した業務を深化できるようになった。



⑥総合医療まちづくりの現場「ヘルスベース」

自己免疫力を高める取り組みをし、健康寿命 No.1 のまち「泉大津」を目指している泉大津には、官民連携の取り組みのひとつとして今後進めていくであろう「ヘルスベース」がある。

東洋医学を取り入れた様々な体験をしながら、健康について学べる場となっている。またカフェも併設されており、有機野菜、発酵食品などを使ってのカラダに優しい料理を紹介している。

◎視察を終えて感じたこと

泉大津市では、「本来、人が持つ機能を最大限引き出す取組み」であるブレインブーストや、「身体の機能を取り戻す取組み」であるあしゆびプロジェクトなど、アビリティの実証に向けた取組みを積極的に実施されています。さらに、健康増進のための選択肢を増やし市民の積極的な取り組みを促すことを目的に、アビリティ関連事業者の誘致及び活躍の機会、実証の場の創出、並びに大学・研究機関等の関係機関との連携を図り、様々な社会課題の解決モデルを生み出す仕組みとしての「リビングラボ」の構築を進めています。

泉大津では、我が国の共通課題を解決するモデル事業を公民連携市民共創するために、先頭を切って発信し続けていることに市長のリーダーシップと職員の皆様の勢いを感じました。

